

学会名 日本看護研究学会第49回学術集会
(2023年8月19日～20日)

研究テーマ 回復期リハビリテーション病棟における認知症高齢者の自宅退院支援アセスメントツールの作成

病院名 医療法人喬成会 花川病院

演者 ○武田愛美(看護師) 佐野由依(看護師) 三浦友貴(看護師) 高間聖恵(看護師)
五十嵐圭子(看護師)

概要

【研究背景】回復期リハビリテーション病棟(以下回復期リハ病棟)の看護師は、患者の思いを汲み、住み慣れた地域で生活できるよう退院支援に取り組んでいる。近年、認知症高齢化が加速するため、認知症を有する高齢者に特化した退院支援を行う必要がある。

【研究目的】回復期リハ病棟において、認知症高齢者の自宅退院支援を見据えたアセスメントツールを作成する。

【研究方法】

対象:回復期リハ病棟を有する全国20施設で、経験年数5年以上の退院支援や認知症ケアに精通している看護師等約100名

調査方法:(1)退院支援質評価指標の3施設の先行文献を参考にし、専門チームで独自に認知症高齢者の自宅退院支援アセスメントツール10分野48項目を作成。(2)作成した項目を基に一次、二次調査のアンケート調査を実施。

分析方法:デルファイ法を用い「非常に重要」「重要」を選択した人数の割合を重要度とし、90%をカットポイントとして定めた。一次、二次調査共に、追加項目や裏付けとなる根拠を記載する自由記載欄を設けた。

倫理的配慮:A病院倫理委員会で承認を得た。

【結果】

一次、二次調査で、重要度90%以下の6項目を除外。その他内容が類似している項目を集約し、10分野48項目から9分野38項目となった。

【考察】アセスメントツールの分野としては、9分野となり既存の研究と同様の結果となった。また既存の項目に見られない「本人の生きがいや楽しみ」「退院後に予測される合併症とその対応について説明」が見い出された。認知症高齢者の生きがいについて、小木曾らはICFの視点を持ち、高齢者の生活機能に着目し、その人のもてる力の活用が重要と述べられており、重要な項目と示唆された。また、認知症高齢者は自律神経の機能が低下し合併症が併発しやすいため、回復期リハ病棟看護師は退院後に予測される合併症を抽出し本人家族と共有し、地域連携を図っていくことが重要と考える。

【引用参考文献】

- 1) 清永 麻子、永田 千鶴、堤 雅恵、野垣 宏 (2018) : 回復期リハビリテーション病棟看護師の認知症高齢者への退院支援、日本リハビリテーション看護学会誌
- 2) 瀧上 恵子、田高 悦子、臺 有桂 (2012) : 認知症を有する人の退院支援ニーズ評価尺度の開発とその信頼性・妥当性の検討、八王子保健所、横浜市立大学大学院医学研究科地域看護学日本地域看護学会誌
- 3) 山本 さやか、百瀬山美子 (2019) : 回復期リハビリテーション病棟の看護師による退院支援の質評価指標作成の試み、愛知県立大学看護学部紀要